

介護施設向け 転倒転落予測AIシステム

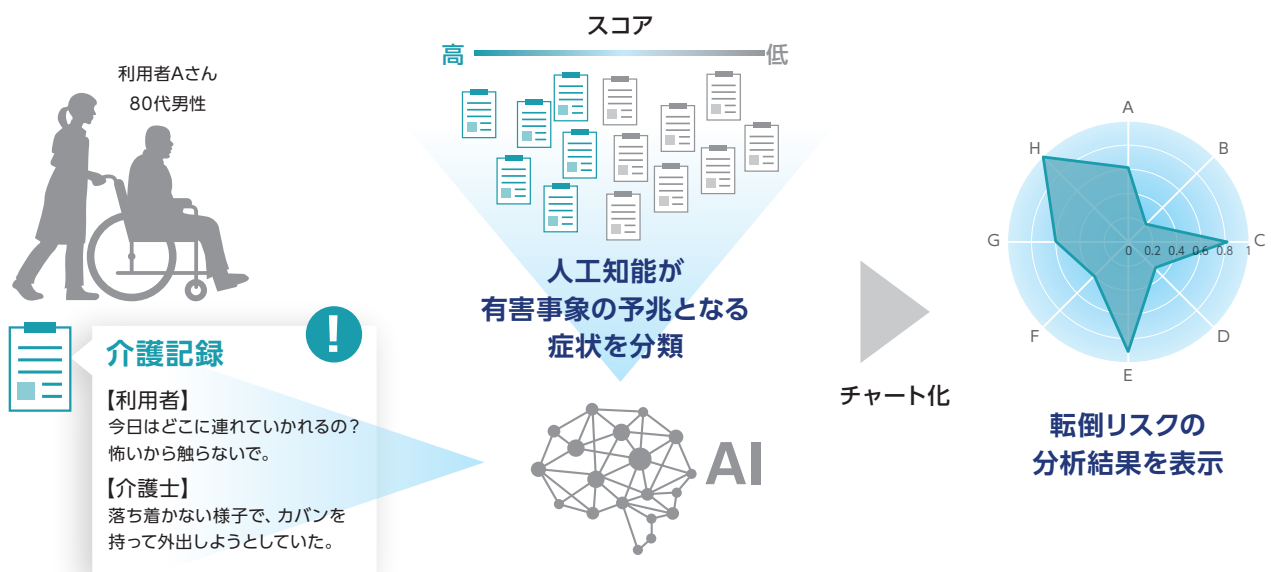


人工知能Concept Encoder^(*)で介護記録を解析し 利用者の転倒・転落を事前予測

高齢者の転倒・転落は、要介護状態・寝たきり状態や認知症の進行につながるだけでなく、死亡に至る危険性もあることから、介護施設においてはその発生予防に向けたさまざまな対策を講じています。半面、生活の場である介護施設においては、安全の確保と利用者の活動の尊重の両立が不可欠であり、現場では対応に苦慮しているのが実情です。

介護施設向け転倒転落予測AIシステムは、AIを用いて介護記録を解析し、利用者の転倒・転落の発生を事前に予測。リスク評価の質の向上と標準化、介護負担の軽減に貢献します。

介護施設向け転倒転落予測AIシステムの概要



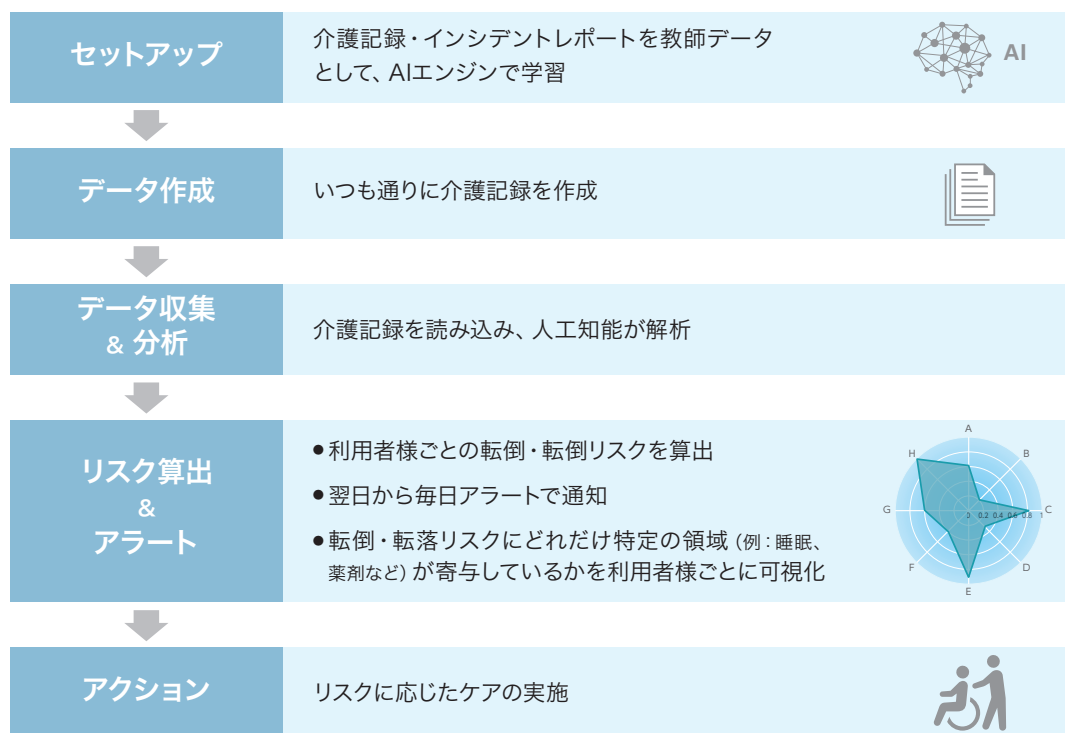
介護記録をAIが解析し、各利用者について評価項目ごとに転倒・転落リスクを表示



介護施設向け転倒転落予測AIシステムの特徴

- スタッフの作業負担を増やすことなく、日々記録する介護記録を用いてリスクを解析します。
- AIの活用により、リスク評価にかかる時間の短縮が期待されます。また、担当スタッフの経験に左右されない評価の標準化が図れます。
- 転倒・転落リスクの高い利用者を適切に予測することにより、必要な人にタイムリーに必要なケアを提供できます。

使用の流れ



開発経緯

2015年にNTT東日本 関東病院と共同研究を行い、2019年よりエーザイ株式会社とともに医療機関への販売を開始しました。2020年1月に特許庁より特許権（特許登録番号6652986号）を取得し、同3月、日本転倒予防学会推奨品認定。2022年より介護記録による解析も可能となりました。

※ 本システムは医療機器ではありません。本システムは転倒・転落のリスクを予測するものであり、医師・看護師の判断を意図するものではありません。

